



けやきよ...

発行者

校長 西内英理

例年より短い夏休みが終了、2学期が始まりました。

3週間という大変短い期間の夏休みが終了し、今日から2学期が始まりました。昨年度末から1学期にかけては、コロナウイルス対策のため、様々な教育活動が中止・延期となってしまいました。この2学期は、本校からコロナウイルス感染者を出さないこと、熱中症患者を出さないこと、いろいろな行事等が計画通りに実施できること等を強く強く願うばかりです。

本日の始業式では、生徒たちに次のような話をしました。

テレビ等の報道では、連日コロナウイルス感染症拡大の状況を伝えております。気を許した仲間内から感染が広がったり、大丈夫だろうと思っていた場所が感染場所となったりするなど、ちょっとした気の緩みから感染してしまっている人も多いような気がします。この状況は収束の様子が見えず、今後どのようになっていくのか、全く予想ができません。

今後の学校行事についても、コロナ対策、熱中症対策を考えると、例年と同じ内容で実施することができるのか、また実施すること自体が可能なのかかどうかを検討しなければなりません。

しかし、明らかなのは、このような状況でも時間は確実に過ぎていく、ということです。皆さんの、中学1年生として、中学2年生として、中学校生活最後の1年間としての時間は刻々と過ぎていっています。皆さんには、世の中の動きに負けることなく、将来の自分自身のために、今自分がやらなければならないことは何なのかをしっかりと見定め、その姿に向かって、何事も計画的にそして自主的に取り組んでほしいと思います。進路に関して、学習に関して、生徒会活動に関して、部活動に関して、友人関係に関して、家庭生活に関して、様々な場面があるとは思いますが、それらに関しての半年後の理想の自分を想像し、その姿に向かって努力し続けてほしいと思います。

終業式には3つのお願いをしました。

- ①自分がウイルスに感染しない努力をすること、また自分がどうすることが社会全体の感染拡大防止に役立つのかということを通して、自分が社会の一員としての役割を考えるきっかけにしてほしい。
- ②今の自分は将来に向けてどうすべきなのかをじっくりと考え、時間を有効に使って自分自身を成長させてほしい。これは、先ほどお話しした内容とほぼ同じことです。
- ③どんな時にでも相手の気持ちを理解しようと努力のできる人間を目指してほしい。

この③については、感染者やその家族が辛い思いをしているということを例に出して話しました。しかしこの3週間、日本全国においてこのような事例がたくさん出ております。感染者の家族が誹謗中傷を受けたり、感染者と同じ大学に通っているということでアルバイトをクビになったり、感染者と同じ職場だったというだけでグループからはじかれたりと、たくさんの嫌な事例が耳に入ってきました。

終業式に話したように、ウイルスに感染した人の大多数は、望んで感染した訳ではありません。校長先生は、その人達の身体的な苦痛はもちろん、心の痛みも分かってあげられる人にならなければならないと、強く感じました。みなさんにも、人の痛みや苦しみが自分のことのように理解できる大人に成長してほしいと思います。

さて、いよいよ2学期が始まります。コロナばかりでなく、熱中症にも十分な警戒をして万全の対策で臨み、平一中生ひとりひとり全員が、実りある2学期になることを願って、2学期始業式の式辞とします。